

(様式2) 平成26年度東京都・荒川区 学力調査に関する結果分析シート

学校名 荒川区立第三中学校

学力調査名	調査前に記入	実施結果	
区学力調査 全学年	成果指標(具体的な数値指標)	区 正答率	自校正答率
	各学年とも荒川区の達成率を2ポイント上回る。	1年 国語 68.5 数学 61.0 英語 59.4 社会 55.4 理科 55.7 2年 国語 67.9 数学 57.5 英語 65.5 社会 45.5 理科 51.6 3年 国語 67.8 数学 56.0 英語 59.6 社会 44.7 理科 46.5	1年 国語 69.3 数学 65.5 英語 61.9 社会 57.0 理科 59.3 2年 国語 72.3 数学 67.0 英語 75.0 社会 49.2 理科 56.5 3年 国語 68.2 数学 58.1 英語 58.6 社会 42.4 理科 43.8
都学力調査 中学校2年 小学校5年	成果指標(具体的な数値指標)	都 正答率	自校正答率
	全教科とも東京都の平均正答率と同等かそれを上回ることを目指す。	国語A 61.6 社会A 60.4 数学A 56.9 理科A 54.4 英語A 62.3 国語B 50.7 社会B 46.7 数学B 42.0 理科B 44.2 英語B 25.6	国語A 68.5 社会A 61.4 数学A 65.0 理科A 58.9 英語A 68.8 国語B 51.8 社会B 49.5 数学B 48.7 理科B 48.3 英語B 36.6

平成26年度結果分析および具体的な方策
1 結果分析 ○荒川区の学力調査では概ね良好である。一部の教科で正答率が荒川区を下回っているので、基礎基本の確実な定着のため授業の工夫とともに家庭学習を充実させていく。 ○東京都の学力向上調査では、全ての教科でA Bともに都の正答率を上回った。数学と英語を4層に分けるとA層（上位層）が約3割いるが、約3割がD層（下位層）となっており、2極分化が顕著である。今後は下位層の引き上げのため、基礎基本の徹底・定着を図るとともに、上位層の引き上げが重要である。 ○国語の長文読解、数学での生活に密着した問題等、読解力、思考力を今後さらに身に付けさせたい。 2 各学年・全校での取り組み ○従来より家庭学習の重要性を訴えてきた。塾へ行く生徒もいるが、まずは自学自習での取り組みを充実させたい。「スクールライフ」による家庭生活の計画・実施等の記録を活用し、担任よりアドバイスをしている。 ○夜間の学習教室「あらかわ寺子屋」による各種検定（漢字、英語、数学、文章・読解力）の取得を目指した取り組みを推奨している。目標を明確にした学習の意欲付けと意欲の向上を図っている。 ○朝学習を週3日行い、基礎基本の定着に向けている。 ○英語「スプリングコンテスト」、数学「計算コンテスト」により目標をもった学習へと取り組んでいる。賞を設けるとともに、再テストによる学習の定着にも取り組んでいる。 ○新聞のコラムの書き取りや200字での作文により読解力や文章力の向上に向けている。 ○校内弁論大会を目指しての、作文指導、学級・学年での弁論大会を行い、表現力を育成するとともに、他者の弁論を聴き、受容と批判の力を育てる。また、この取り組みを通して言語活動の充実とさせる。 3 方策 ○小中一貫教育研究実践校の取り組みにより地域の2小学校との連携しながら学力向上を進めていく。 ○夜間の学習教室「あらかわ寺子屋」による各種検定（漢字、英語、数学、文章・読解力）の取得を目指した取り組みを推奨している。目標を明確にした学習の意欲付けと意欲の向上を図っていく。 ○電子黒板やタブレット型PCの効果的な活用により分かり易い授業の工夫を行い、学習への興味・関心・意欲を向上させる。 ○英語と数学での少人数による習熟度別授業を行い、基礎基本の充実とともに応用・活用を充実させ伸長させる。 ○学校図書館モデル校として学校図書館司書との協働授業や図書館活用授業を行い、学校図書館の学習センター化を図っていく。

※「行の高さ」は変更していただいて構いません。